

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成 18 年度

在学生・教員

# KTC総合アンケート調査結果

[ 報告書 ( 抜粋 ) ]

金沢工業高等専門学校

## 平成18年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは開始から4年目となり、新たな段階に入った。当初と比較しアンケートに関する学生のマナーも向上したが、未熟な点も見受けられるのは年齢構成からやむを得ない。しかし、回答者が真摯に取り組み回答している姿を見ると、回答が可成りの確度で学生の意思を表現していると見ることが出来る。

総合アンケートは、学生の本校に対する満足度の尺度と見なすことができる。

結果を客観的に判断し、学校改善の資とすることが必要である。ところが最近の回答によれば、要望しても変化がないという回答が見られるようになった。このような回答は学校に対する信頼性にも繋がる恐れがあり、慎重に分析し対応する必要がある。

従来、年度末に実施する総合アンケートでは、学校や教師が指摘事項について、改善のためのPDCAサイクルを実施することが困難な場合があった。そこで年度半ばにアンケートを実施し、これらの結果を参考にして業務を改善し、その結果を同一評価者(学生)に示し反応を確認することとした。学校や教師自らが取捨選択した改善業務の善し悪しを自力で確認できる事により、より良い教育環境を構築できると確信する。

学生が良識を持って回答したアンケート回答は、「正しい」と受け取れる。従って、諸般の事情により改善できない点があれば、実施側にはその理由を詳しく説明する必要がある。アンケートのやり方だけでなく、回答の処理方法においても回答者との間にコンセンサスが得られれば、学校や教師と学生の間には強い信頼感が芽生えることとなる。

信頼感を醸成し、効率的な教育改革を推進したい。

金沢工業高等専門学校  
校長 山田 弘文

## < 1-1 > 全体概略

### 調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- また、この調査企画では教職員にも金沢高専の評価を聞き、学生との意識の違いを見いだすことで、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は、将来的に継続して実施していくことで、金沢高専の評価の変化を時系列で確認することを前提として設計している。今回は平成15年度の調査から続いて4回目であり、4年間の時系列による状況の変化を把握する。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施していたが、分析結果を次年度の業務改善に活かすため、今回から早めに調査を実施することとなった(10月初旬)。これによって結果に差が出ていることも考えられる。
- なお、4回の中で調査項目の見直しを行っているため、一部の設問は以前と比較できる状態にはない。

### 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容
調査概略	調査票による自記入式調査とした。(配布方法は下記の通り。全て学内での配布とした。) なお、全て無記名式とした。
総回収数	総回収数は627サンプル(628サンプルの回収であったが、学科の記入がなかった1件は無効票とした)
対象者と実施方法	1年生～5年生 ・各クラスで配布し、回収した。(配布:10月6日、回収締切:10月6日) ・有効回答数 1年生:121サンプル、2年生:117サンプル、3年生:113サンプル、4年生:121サンプル、5年生:105サンプル
	卒業生 ・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
	教職員 ・各教職員に配布し、回収した。(配布:10月3日、回収締切:10月6日) ・有効回答数 50サンプル
	企業担当者 ・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計	有限会社 アイ・ポイント

## 回属性別の調査項目に関して

質問分野	質問形式	1年	2年	3年	4年	5年	教職員
授業に関して	選択肢式&自由記述						
教員に関して	選択肢式&自由記述						×
「私の目標」に関して	選択肢式(達成度含む)						×
1年間の過ごし方	選択肢式						×
KIT-IDEALSに関して	選択肢式						
施設や設備などに関して	自由記述						
就職・進学に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×			×
人材像に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	簡易版	簡易版	
教員業務に関して	選択肢式	×	×	×	×	×	
教員の金沢高専に関する考え	選択肢式	×	×	×	×	×	

## 集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。</li> <li>今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li> <li>加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li> <li>「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li> </ul>
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。</li> </ul>

## 回答者数に関して

学年	平成18年度 回答者(今回分)	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	121人	122人	135人	140人
2年	117人	130人	135人	127人
3年	113人	113人	98人	113人
4年	121人	113人	109人	121人
5年	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	66人
教職員	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	65人
合計	627人	627人	649人	811人

# < 1-2 > 回答者の基本属性

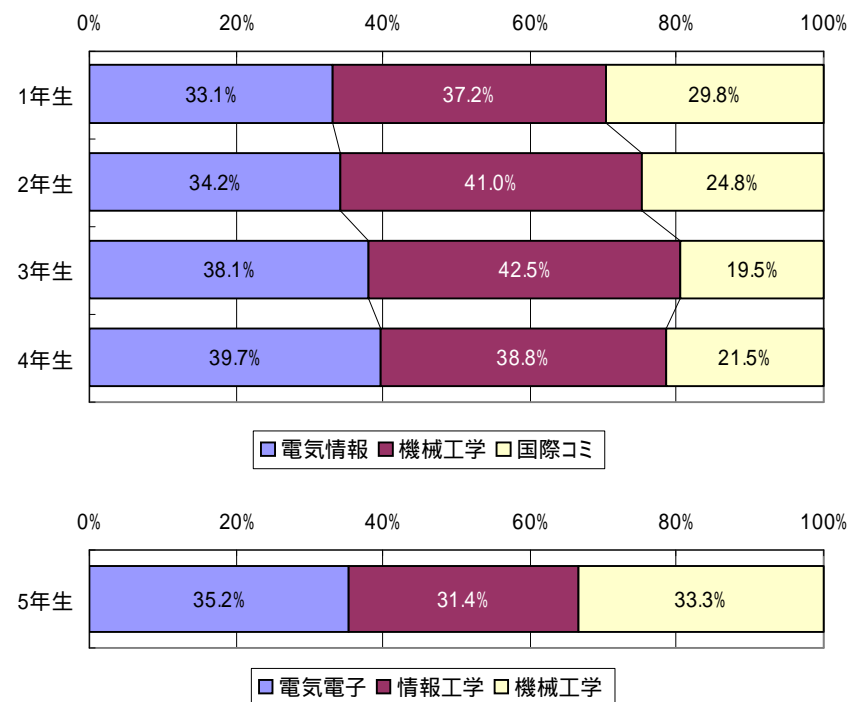
## 回答者全体像

- 今回の調査対象者は下記の通りであった。
- 本報告書で昨年度の結果と今年度の結果を比較する際には、基本的には「昨年度の1年生と今年度の1年生」で比較を行い、学年をまたがって同じ学生群同士で比較することは行わなかった。(一部では比較を行った)

### 学年、属性別回答者数内訳

学年	学科	合計	%	学年計
1年生	電気情報工学科	40	33.1%	121
	機械工学科	45	37.2%	
	国際コミュニケーション情報工学科	36	29.8%	
2年生	電気情報工学科	40	34.2%	117
	機械工学科	48	41.0%	
	国際コミュニケーション情報工学科	29	24.8%	
3年生	電気情報工学科	43	38.1%	113
	機械工学科	48	42.5%	
	国際コミュニケーション情報工学科	22	19.5%	
4年生	電気情報工学科	48	39.7%	121
	機械工学科	47	38.8%	
	国際コミュニケーション情報工学科	26	21.5%	
5年生	電気工学科(電気電子コース)	37	35.2%	105
	電気工学科(情報コース)	33	31.4%	
	機械工学科	35	33.3%	
教職員		50		50
総計		627		627

### 所属学科



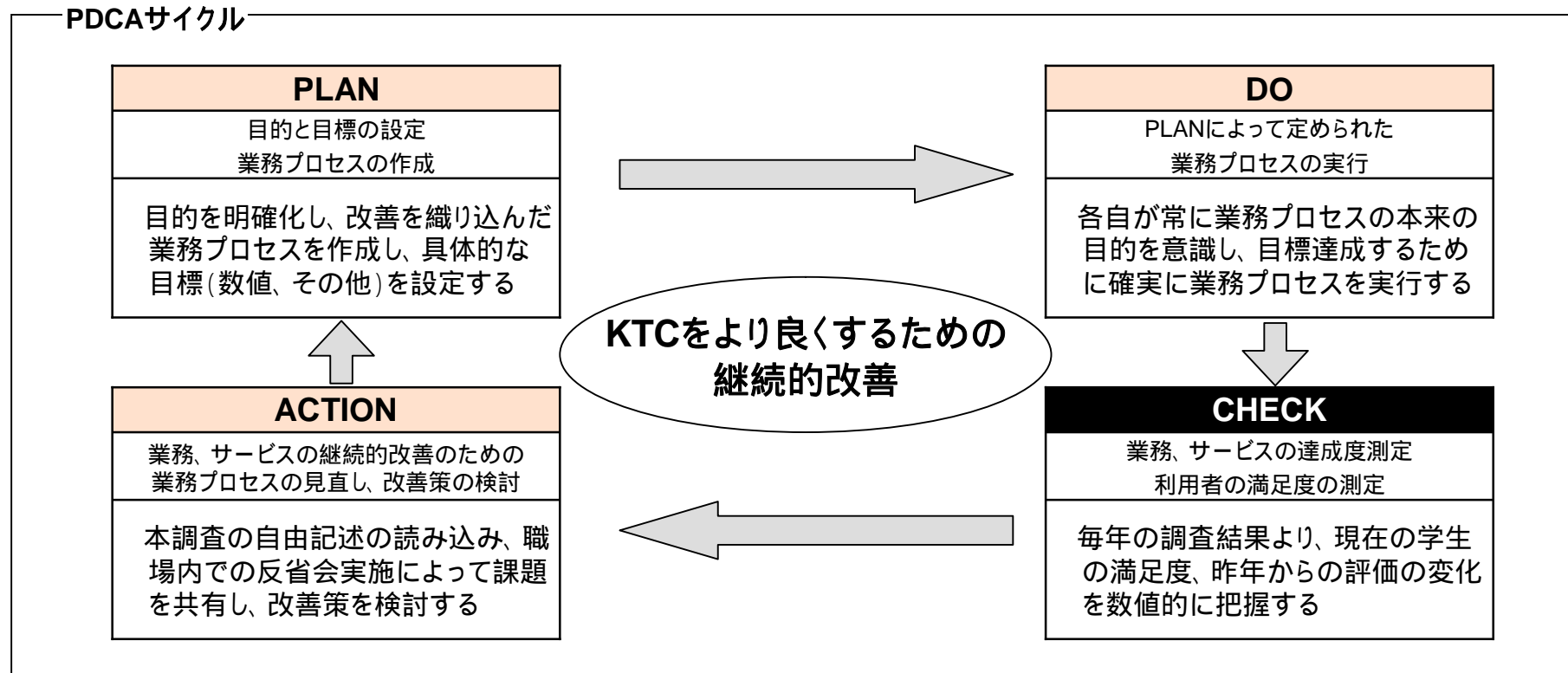
### 学科の表記と、学科分類

1～4年生		5年生		共通略称
正式名称	略称	正式名称	略称	
電気情報工学科	電気情報	電気工学科 (電気電子コース)	電気電子	電気情報・電子
機械工学科	機械工学	機械工学科	機械工学	機械工学
国際コミュニケーション情報工学科	国際コミ	電気工学科 (情報工学コース)	情報工学	国際・情報

## < 1-3 > PDCAサイクルに関して

### PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。(昨年と同内容)



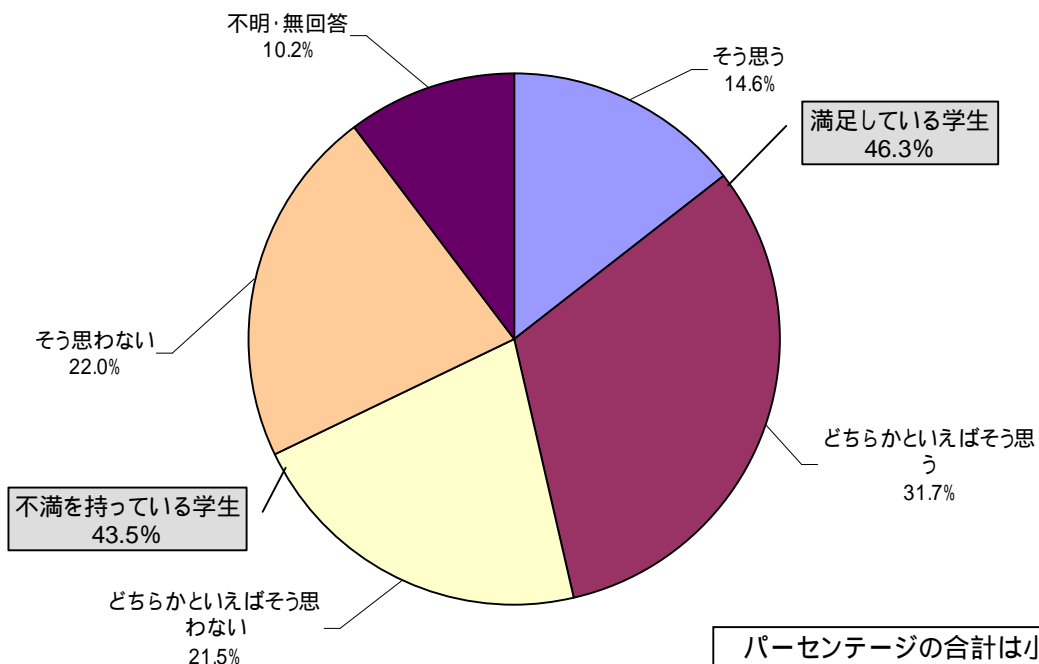
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

## < 2-1 > 金沢高専の総合的な満足度

### 本年度の総合的な満足度

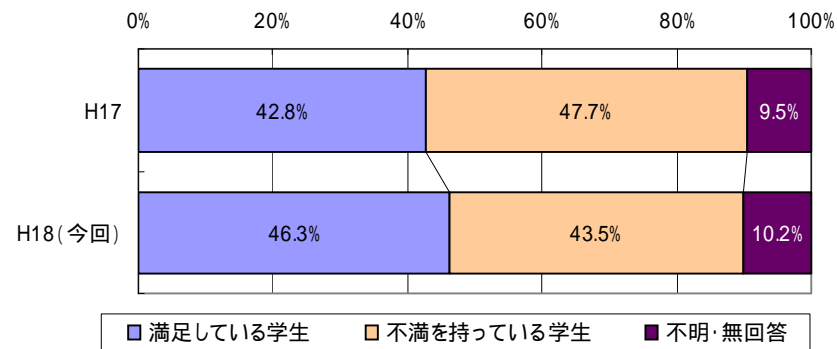
- 金沢高専に対する「総合的な満足度」を見ると、「そう思う」が14.6%、「どちらかといえばそう思う」が31.7%であり、合わせると46.3%が満足していると回答していた。一方、「そう思わない」は22.0%、「どちらかといえばそう思わない」は21.5%で、これらを合わせると43.5%が不満を持っていた。
- 上記から分かるように、今回の調査においては「満足している」が「不満を持っている」を2.8ポイントと、わずかではあるが上回っていた。H17には「不満を持っている」の方が4.9ポイント上回っていたが、今回は「満足している」の方が上回っていた。
- ただし、今回は調査の実施時期がH17までと異なり、学年末の3学期を過ごす前の状態であるため、その影響も多少はあるものと思われる。

総合的に見て金沢高専に満足していますか？



パーセンテージの合計は小数点以下の処理で合計が合わないものもある。

金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

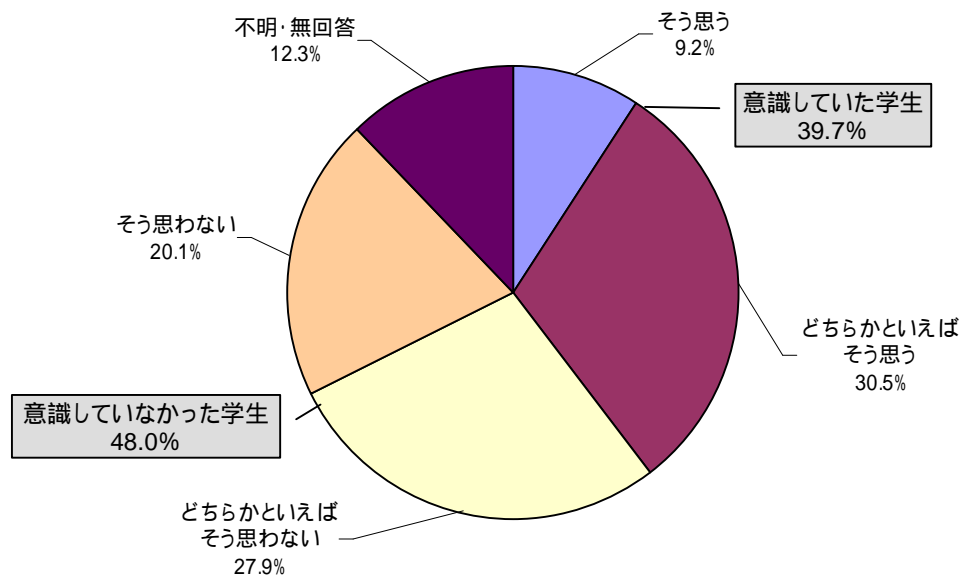
年度	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	<	47.7%
H18(今回)	46.3%	>	43.5%

## <2-3> 「私の目標」に関して

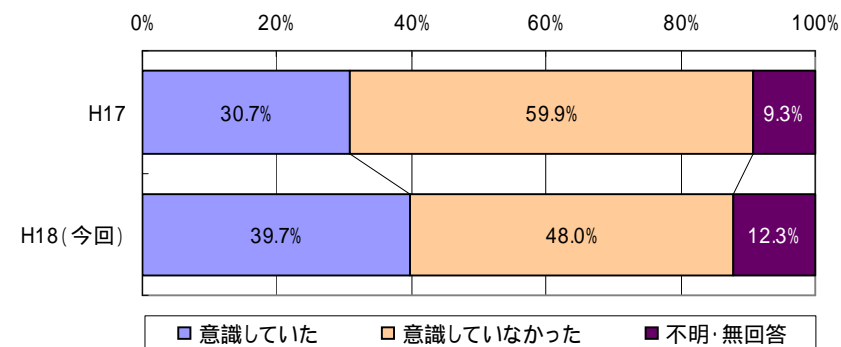
### 「私の目標」の意識に関して

- まず、「自分自身で定めた『私の目標』を意識して過ごすことができましたか？」に対しては、「そう思う」が9.2%、「どちらかといえばそう思う」が30.5%であり、合わせて39.7%が目標を意識して過ごしていたと答えていた。
- 一方、「そう思わない」は20.1%、「どちらかといえばそう思わない」は27.9%であり、「意識していなかった」という学生は48.0%と、「意識していた」を8.3ポイント上回っていた。
- この設問はH17から加えており、その変化を見るとH17には「意識していた」が30.7%であったが、今回は9.0ポイント増加しており、学生の意識としては良い方向に向かっていると見えそうであった。

「私の目標」を意識して過ごすことができましたか？



「私の目標」の意識 年度別比較



「私の目標」の意識 年度別内訳

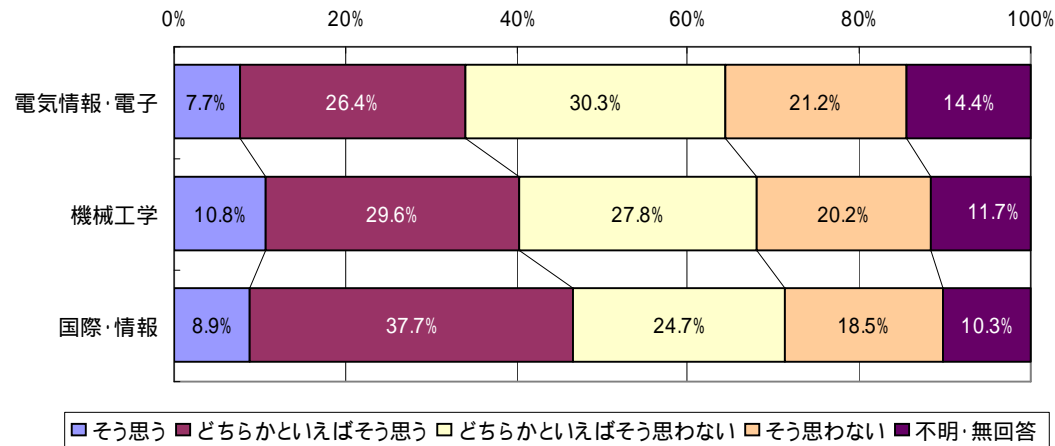
年度	意識していた		意識していなかった
H17	30.7%	<	59.9%
H18(今回)	39.7%	<	48.0%



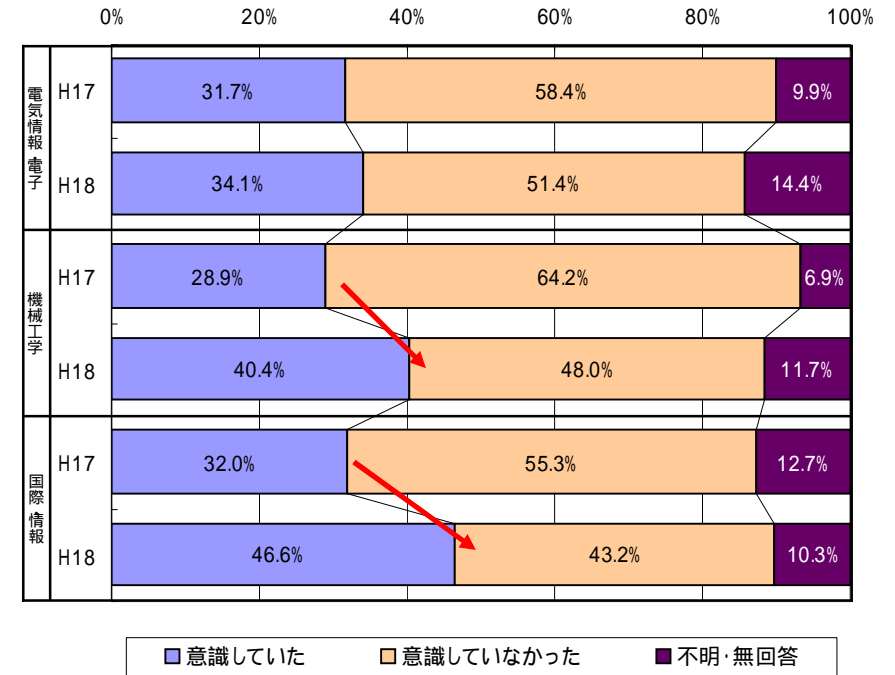
## 「私の目標」の意識 共通学科別比較

- 共通学科別に比較すると、「国際・情報」で「意識していた」が「意識していなかった」を上回っており、この学科の学生は「私の目標」をよく意識して過ごしていることが分かった。
- 一方、「電気情報・電子」で「意識していた」は34.1%、「機械工学」で40.4%と、いずれも「意識していなかった」の方が多かった。
- 年度別に見ると「国際・情報」で「意識していた」がH17より14.6ポイント増加し、「機械工学」でも11.5ポイント増加しており、学生の意識が良くなっていることが確認できた。
- そして、「電気情報・電子」はH17からH18にかけて、「意識していなかった」は7.0ポイント減少していたが、「意識していた」は2.4ポイントの増加で、ほとんど変化はなかったと言える。

### 「私の目標」の意識 共通学科別比較



### 「私の目標」の意識 共通学科別・年度別比較



### 「私の目標」の意識 共通学科別内訳

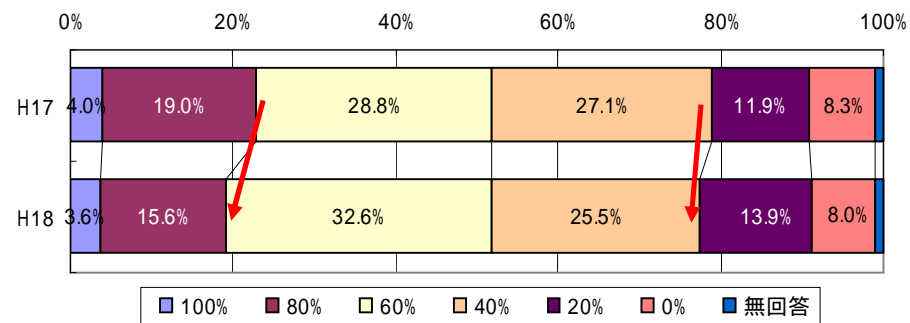
学年	意識していた学生の合計		意識していなかった学生の合計
電気情報・電子	34.1%	<	51.4%
機械工学	40.4%	<	48.0%
国際・情報	46.6%	>	43.2%

「国際・情報」だけ「意識していた」という学生が多い

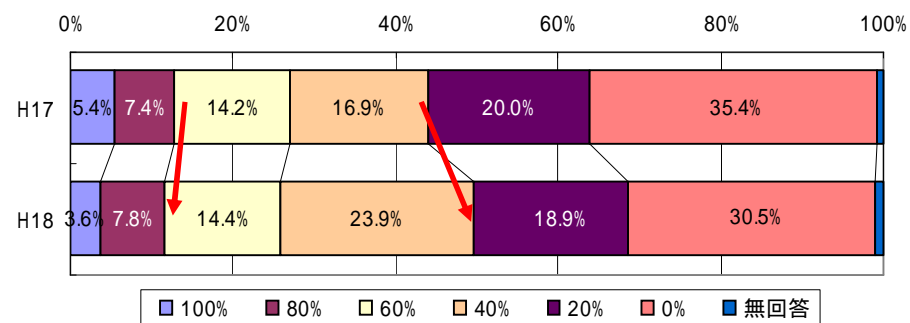
## 「私の目標」の達成度

- 「私の目標」の達成度が「100%～80%」の達成度の高い層、「60%～40%」の中間層、「20%～0%」の達成度が低い層の3つで比較した。
- 分野別には「課外活動・クラブ活動」で達成度が高く、次いで「学習面」「資格取得面」という順であった。ただし、「課外活動・クラブ活動」は達成度が低い学生も多く、充実している学生と充実していない学生の二極分化があるようであった。
- 年度別に見ると「学習面」では達成度が高い層が減り、達成度の低い層が増加しており、全体として達成度が下がっているようであった。
- 「資格取得面」では達成度が高い層がわずかに減っていたが、達成度が低い層も減少しており、中間層が増加していた。
- 「課外活動・クラブ活動」に関しては、「80%達成」の増加が目立っており、H17より5.4ポイント増加していた。そして、その影響もあって全体としては達成度が高まっていた。

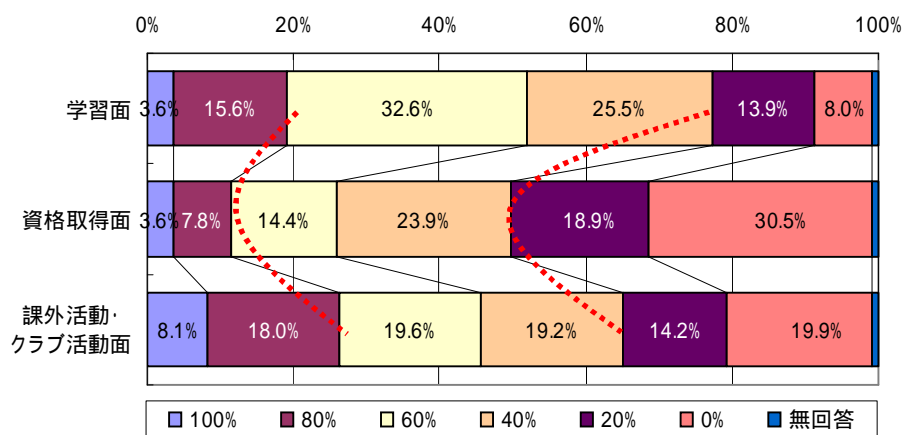
### 「学習面」の達成度 学年別・年度別比較



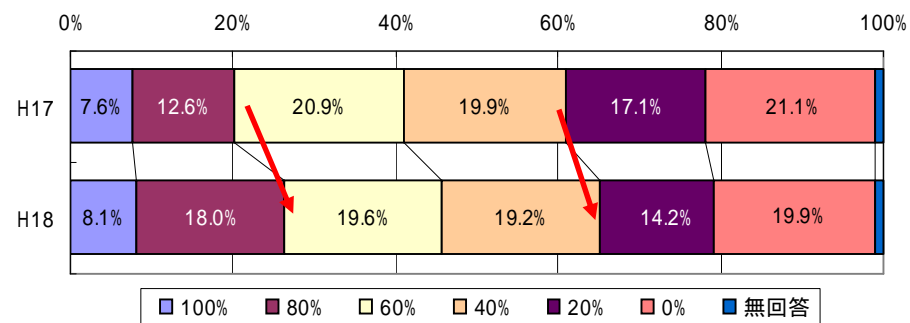
### 「資格取得面」の達成度 学年別・年度別比較



### 「私の目標」の分野別達成度



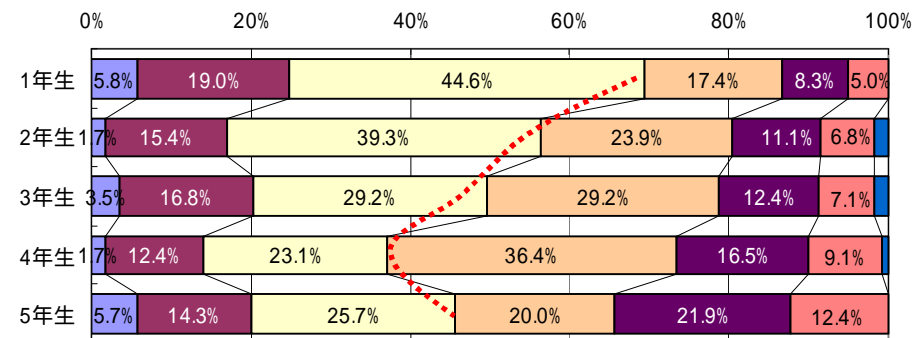
### 「課外活動・クラブ活動」の達成度 学年別・年度別比較



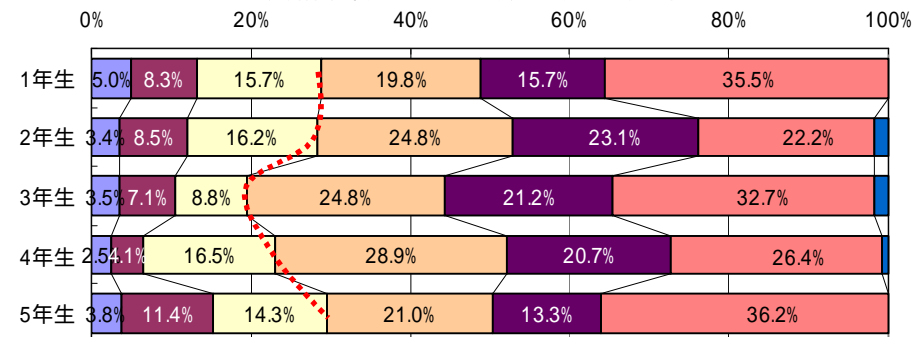
## 「私の目標」の達成度 学年別比較

- 学年別の達成度の比較に関しては、ほぼ中間である「達成度60%」と「達成度40%」の境界線などで比較した。
- 「学習面」に関しては、「達成度100%」「達成度80%」では傾向は見えないが、上記の境界線で見ると1年生より高学年になるほど達成度が低下し、4年生の達成度が最低で5年生でやや上向いている。
- ただし、5年生は「達成度20%」「達成度0%」も多いことから、学習についていっている学生と取り残されている学生の二極分化が起こっているものと思われる。
- 「資格取得面」は学年による傾向が明確ではないが、3年生と4年生の達成度がやや低めであった。そして、1年生、2年生、5年生の達成度が似たような結果となっていた。
- 「課外活動・クラブ活動面」に関しては1年生の達成度が高い点が目立っており、1年生が熱心に取り組んでいる様子が見える。
- そして、2～5年生はそれほど大きな差はないが、2年生から4年生までは高学年ほど達成度がやや下がる傾向があり、5年生で達成度が高まっていた。

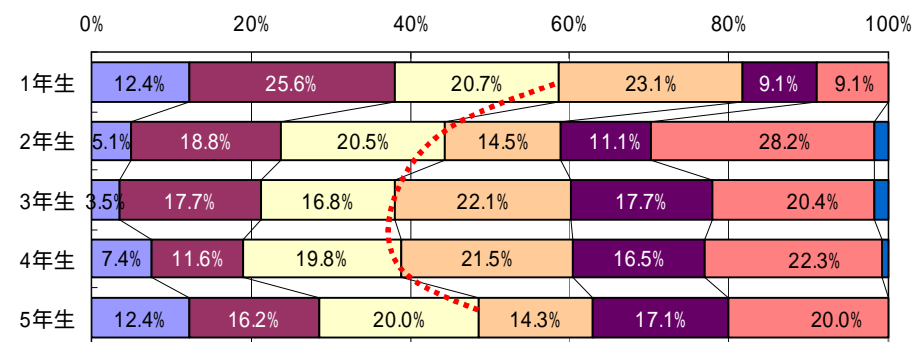
### 「学習面」の達成度 学年別比較



### 「資格取得面」の達成度 学年別比較



### 「課外活動・クラブ活動面」の達成度 学年別比較

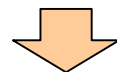


■ 100% ■ 80% □ 60% ■ 40% ■ 20% ■ 0% ■ 無回答

## < 2-4 > 基本的な指標に関するまとめ

### 基本的な指標に関するまとめ

	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>46.3%が満足しており、不満足(43.5%)を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H17よりも満足している学生は増加し、不満足を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生は満足している学生の方が多い。</li> <li>4年生の満足度が最も低く、満足している学生は全体の1/3であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「機械工学」「国際・情報」はH17より満足度が向上。</li> <li>「機械工学」だけ満足している学生の方が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学年度で特徴がある。</li> <li>現2年生、現5年生は満足度が高めで、現4年生は低い傾向が見られる。</li> </ul>
好意	<ul style="list-style-type: none"> <li>43.2%がKTCが好きだと答えている。</li> <li>好きではないの方が46.1%と多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きだという意見はH17よりも増加していた。</li> <li>わずかな差であるが好きという意見は過去4年間で最も多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生は好きという意見が上回った。</li> <li>4年生で好きという意見が最も少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「機械工学」はH15より継続的に好きの割合が増加。</li> <li>「国際・情報」はH17より好きが増加し、「電気情報・電子」は変わらず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には高学年ほど好意が薄くなる。</li> <li>現5年生は好きが多く、現4年生は3年生時、現3年生は2年生時に好きが大幅に減少している。</li> </ul>
私の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>私の目標を意識していた学生は39.7%であり、意識していなかった学生の48.0%を大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H17よりも目標を意識していた割合は増加していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生は目標を意識していた割合が意識していない割合を上回った。</li> <li>高学年ほど意識していた割合は減り、5年生が最低。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際・情報」だけは意識していた割合が上回った。</li> <li>「機械工学」「国際・情報」は、H17より意識していた割合が増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生は私の目標を意識する割合がH17より大きく増加していた。</li> </ul>
分野別達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外・クラブ活動面の達成度が高く、次いで学習面が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面の達成度は低下し、資格取得面は中間層が増加、課外・クラブ活動面は達成度が向上していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面は4年生が最低で、資格取得面は3年生が最低。課外・クラブ活動面は3、4年生が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面は「機械工学」がやや低く、資格取得面も「機械工学」が最低。課外・クラブ活動面は「電気情報・電子」が最低であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面は全体的に達成度が高いが、課外・クラブ活動面は参加者だけの達成度が高いのではないかとと思われる。</li> </ul>



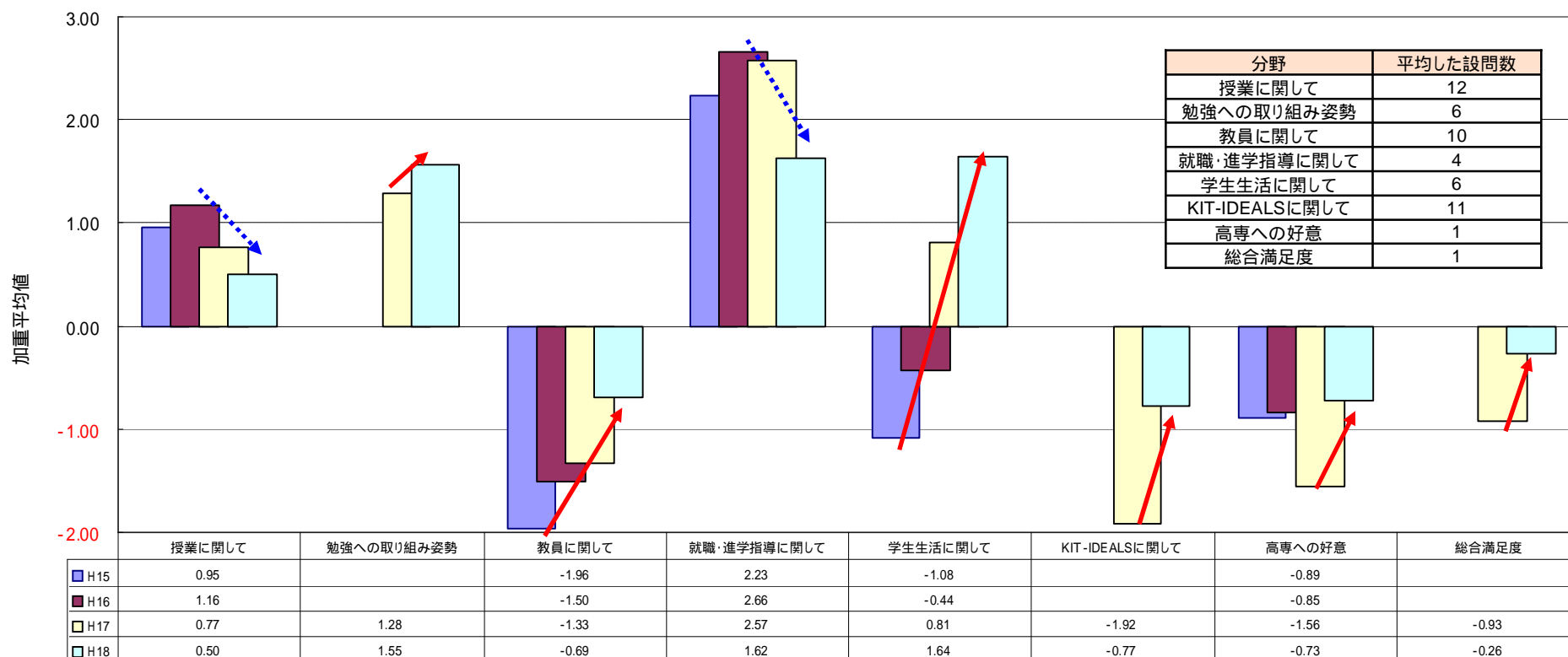
- ◆ 「満足」は「不満」を上回ったが、「好意」「目標の意識」はネガティブな意見の方が多かった。
- ◆ 「満足度」「好意」「目標の意識」の3つとも、H17より良い方向に変化していた。「好意」は過去最高で、その他の変化も大きく期待が持てる。
- ◆ 3指標ともに1、2年生では前向きな意見の方が上回っていたが高学年ほどネガティブになり、「満足度」と「好意」は4年生が最低であった。
- ◆ 「機械工学」は「満足度」「好意」とも高い。「国際・情報」もH17より良い方向に変化しており、「目標の意識」は「国際・情報」が最も高かった。
- ◆ 入学年度による特徴があり、現5年生は「満足度」「好意」とも高い傾向があり、現3年生は「満足度」は高いが「好意」が低い傾向があった。
- ◆ H17と比較して「学習面」の達成度は低下、「課外・クラブ活動面」の達成度は向上している。そして、「機械工学」の達成度が低めであった。

# < 3-1 > 全体傾向の経年変化

## 全体の傾向

- 今回の調査では各項目毎に加重平均を算出して分析しているが、各分野毎にそれらの加重平均の平均を算出して、どのような経年変化があるかを確認した。分野毎に設問数が異なり、計算も加重平均の更に平均となるため特徴が分かりにくくなるが、全体の大まかな把握のため参考になるものと思われる。
- まず、全体の大まかな傾向を見ると、「授業」と「就職・進学指導」の2つはH16より継続的に評価が下がっていたが、その他に関する評価は上がる傾向にあった。
- 中でも「教員」「学生生活」の2つはH15から継続的に評価が上がってきており、改善活動が奏功しているものと思われる。また、H17から聞いている「勉強への取り組み姿勢」「KIT-IDEALS」といった自分自身の姿勢に関する自己評価のスコアも上がってきていた。
- 代表的な指標である「総合的な満足度」と「高専への好意」は、平均ではなく各々の加重平均をプロットしているが、割合の比較でも見たように、この2つもH17から良くなっていた。
- 「授業」の評価低下が気になるが、全体としては良くなっている状態にあると言える。

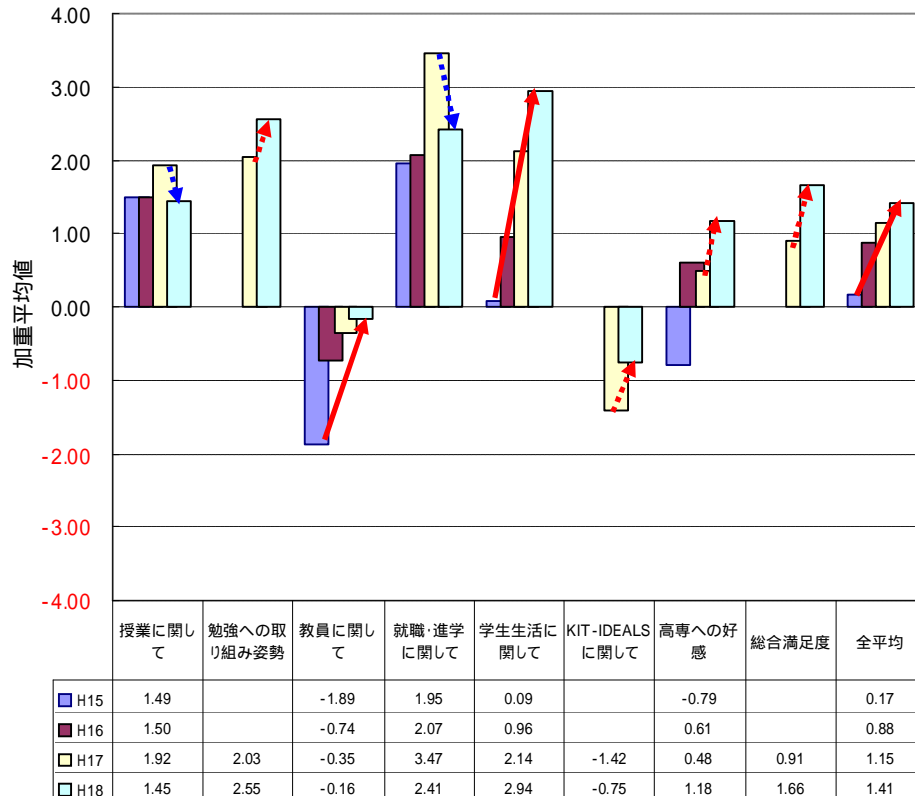
各分野別の加重平均の平均 年度別比較



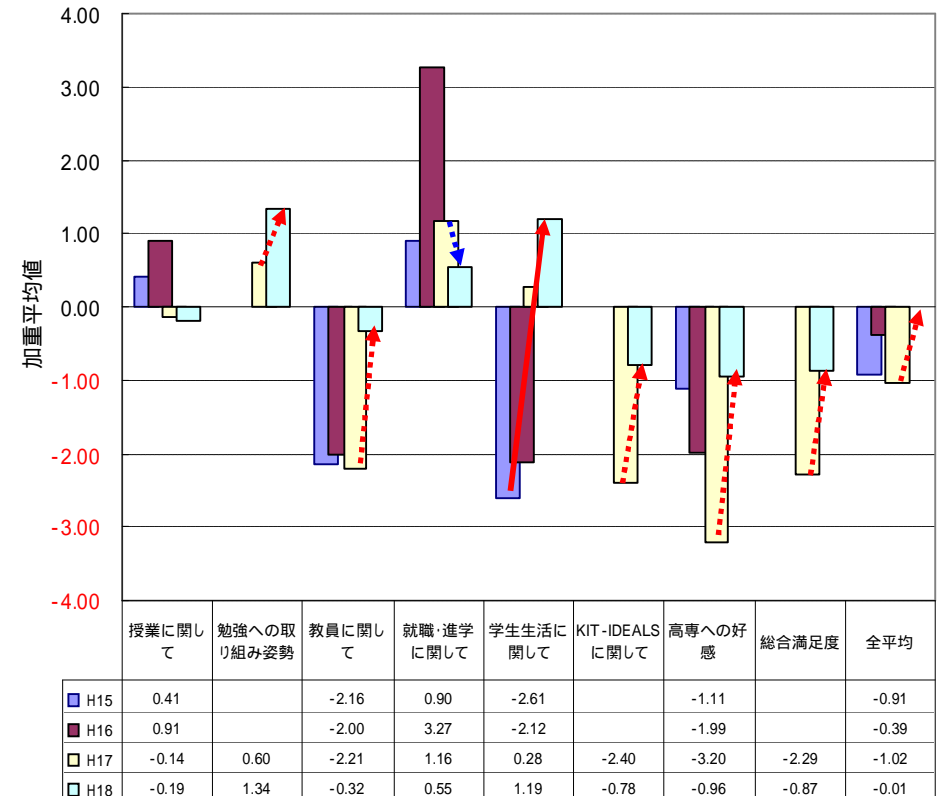
## 学科別、年度別の比較

- 「機械工学」は「授業」「就職・進学指導」の2つがH17からH18にかけてスコアが低下していたが、その他は全て上昇していた。特に「教員」「学生生活」はH15より継続的に向上しており、中でも「学生生活」の向上は継続して大きい点が目立っていた。
- 全平均を見てもH15より継続的に向上しており、「機械工学」は良い状況にあることがうかがえた。
- 「国際・情報」は「就職・進学指導」がH16から継続的に低下、また、「授業」はH17よりわずかに低下しているが、他の分野はH17よりスコアがアップしていた。特に「学生生活」はH15より継続的にスコアが上がっており、H17にはそれまでのマイナスからプラスへと評価が良くなっていた。
- 全平均を見ると、H15からH16にかけてはスコアアップ、H17にかけてはマイナス、H18にかけてはアップとなっていた。ただし、残念ながらスコアはマイナスで、H18のスコアは-0.01とわずかにマイナスであった。

各分野別の加重平均の平均 機械工学 年度別比較



各分野別の加重平均の平均 国際・情報 年度別比較



- 「電気情報・電子」はH17からH18にかけて変化が少ない分野が多く、「授業」「高専への好意」「総合満足度」の3つはほとんど変化がなかった。
- 「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」はH17よりスコアがアップしていた。特に「学生生活」はH15から継続的にアップしてきており、今回はプラススコアとなっていた。
- 全平均はH17からH18にかけてはほとんど変化がなかったが、H15と比べると残念ながら低下したままであり、学生の満足度は低めであったと言える。

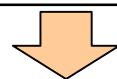
各分野別の加重平均の平均 電気情報・電子 年度別比較



## < 3-2 > 全体傾向に関するまとめ

### 全体傾向に関するまとめ

	全体傾向	良い点	良くない点・課題
年度別	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 4分野と主要指標である「好意」「満足度」が以前より良くなっており、2分野が悪くなっている。</li> <li>□ 全体としては良い方向にあるが、「授業」の評価が下がっている点が気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「勉強への取り組み」「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」の4分野と、「好意」「満足度」が向上しており、良い状態に向かっている。</li> <li>□ 特に「学生生活」の評価向上が大きかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「授業」「就職・進学指導」の2分野の評価はH16より継続的に低下していた。</li> <li>□ 特に「就職・進学指導」の低下が大きかった。</li> </ul>
学年別	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 3つのパターンが見られたが、基本的には高学年ほど評価が下がる傾向にある。</li> <li>□ 1つ目は1年生から4年生まで評価が低下して5年生で向上するもの。2つ目は1年生から3年生まで低下して4、5年生で固定するもの。3つ目は1年生から5年生まで下がり続けるものであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 1年生は全ての面で評価が高い。特に勉強への取り組みが積極的で、学生生活にも満足しており、結果として「好意」「満足度」も非常に高い。</li> <li>□ 2年生も「授業」「勉強への取り組み」は積極的であったが「好意」「満足度」が低く、2年生で意識の変化があるものと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 高学年ほどスコアが低くなっていくが、4年生が低いものも多く、「授業」の評価は4年生が最低で、「好意」「満足度」も4年生が最低であった。</li> <li>□ 4、5年生の「教員」に対する評価が非常に低かった。</li> </ul>
学科別	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ほとんどの項目で「機械工学」の評価が高く、「機械工学」が良い状態にあると思われる。</li> <li>□ 「電気情報・電子」が低めであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ KIT-IDEALSは学科による差がなかったが、その他の分野では「機械工学」が非常に高かった。</li> <li>□ 「勉強への取り組み」「就職・進学指導」「学生生活」は全ての学科のスコアがプラスであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「電気情報・電子」の低さが目立ち、特に「教員」への評価が厳しく、「好意」「満足度」も低かった。</li> <li>□ 「国際・情報」は5つの分野がマイナスで、特に「就職・進学指導」の評価が低く、希望通りになっていない状況が考えられる。</li> </ul>
学年別年度別	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 1～3年生はH17より各分野の評価は良くなっているが、4年生はほとんどの項目で低下しており、5年生は向上と低下が混在していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 1～3年生はほとんどの分野でH17より評価が良くなっている。</li> <li>□ 特にH17からH18にかけての向上はそれ以前と比べて大きかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 4年生はほとんどの分野でスコアが低下していた。</li> <li>□ 5年生は向上、低下が混在していたが、「授業」と「教員」が下がっていた点が気になる。</li> </ul>
学科別年度別	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学科別に経年変化を見たところ、どの学科でも向上したものと低下したものが混在しており、特徴はあまり明確にはならなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「学生生活」に関しては、全ての学科でH15より継続的にスコアが上がっており、どの学科でも着実に良くなっているようであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「就職・進学指導」は全体としてもH17よりスコアが低下していたが、学科別に見ると全ての学科で低下しており、特定の学科だけではなかった。</li> </ul>



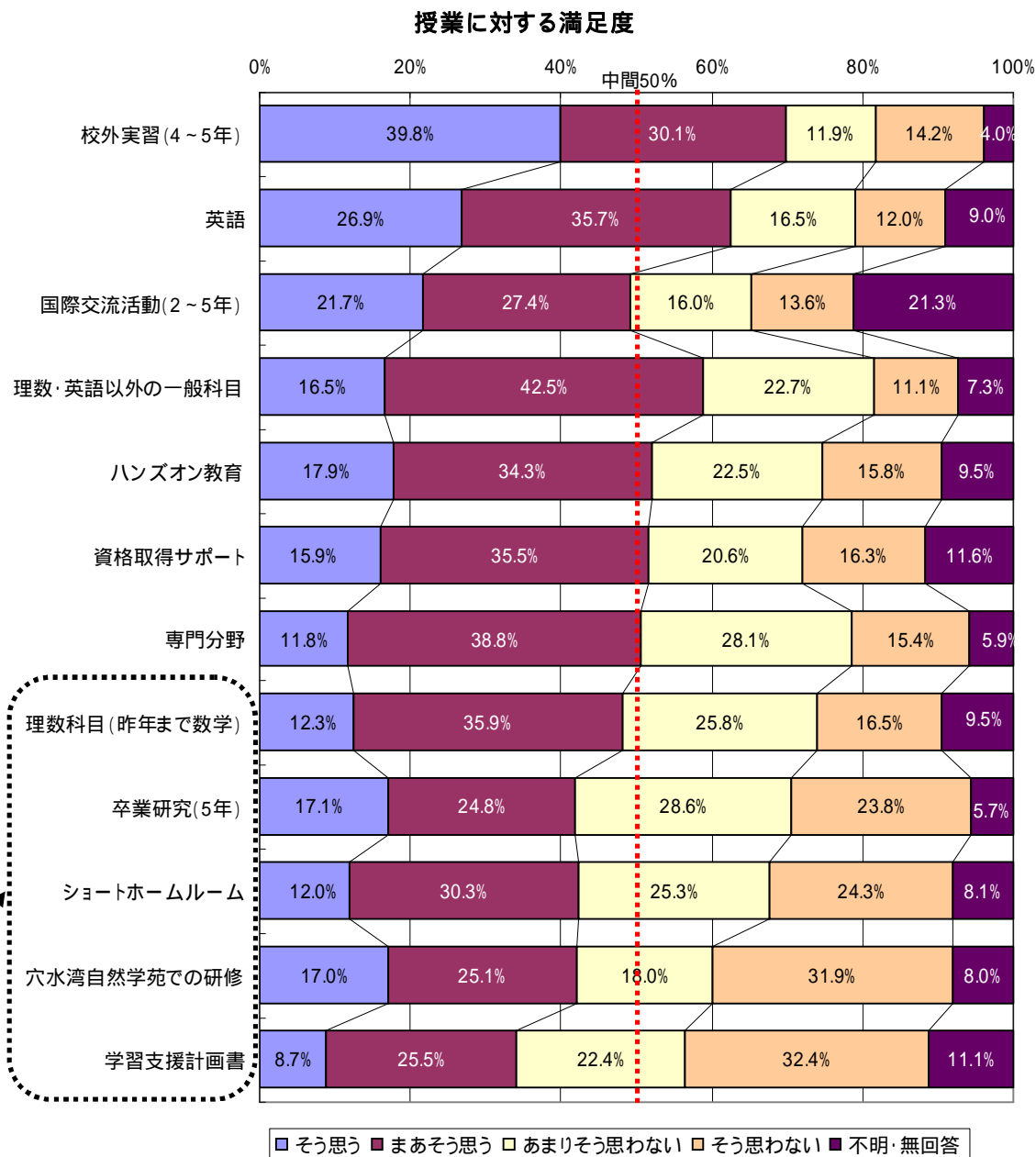
- ◆ 「授業」分野の評価が下がっている点が気になるが、「勉強への取り組み」「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」の4分野と、「好意」「満足度」が向上しており、全体としては良い状態に向かっている。
- ◆ 基本的には高学年ほど各分野の評価が下がっているが、年度別に見ると4年生でH17からの低下が見られるなど、現4年生が何らかの課題を持っている可能性がある。また、4、5年生で「教員」分野のスコアが非常に低かった点が気になる。
- ◆ 「機械工学」が良い状態にあり、「電気情報・電子」に課題がありそうであった。特に「電気情報・電子」は「教員」への評価が厳しかった。また、「国際・情報」は「就職・進学指導」に不満を持っていそうであった。



# < 4-1 > 授業に関して

## 授業評価の全体像

- 授業に対する満足度は12の項目に関して、「 について満足していますか？」という聞き方をしている。右のグラフは割合ではなく、次項以降で分析している加重平均でソートしている。
- 「そう思う」「まあそう思う」の合計で見ると、最も満足度が高かったのは「校外実習」であり、69.9%が満足していた。次いで「英語」では満足しているという意見が62.6%と、一般的な科目の中では最も高かった。
- 「国際交流活動」は「不明・無回答」が多かったが、これは不参加者ではないかと思われる。これを除くと満足度は高いと言える。
- 一方、最も満足度が低かったのは「学習支援計画書」であり、この改善は優先順位を高くするべきである。
- 上記に加えて「穴水湾自然学苑での研修」「ショートホームルーム」「卒業研究」「理数科目」の5つで、満足しているという意見が5割に満たなかった。

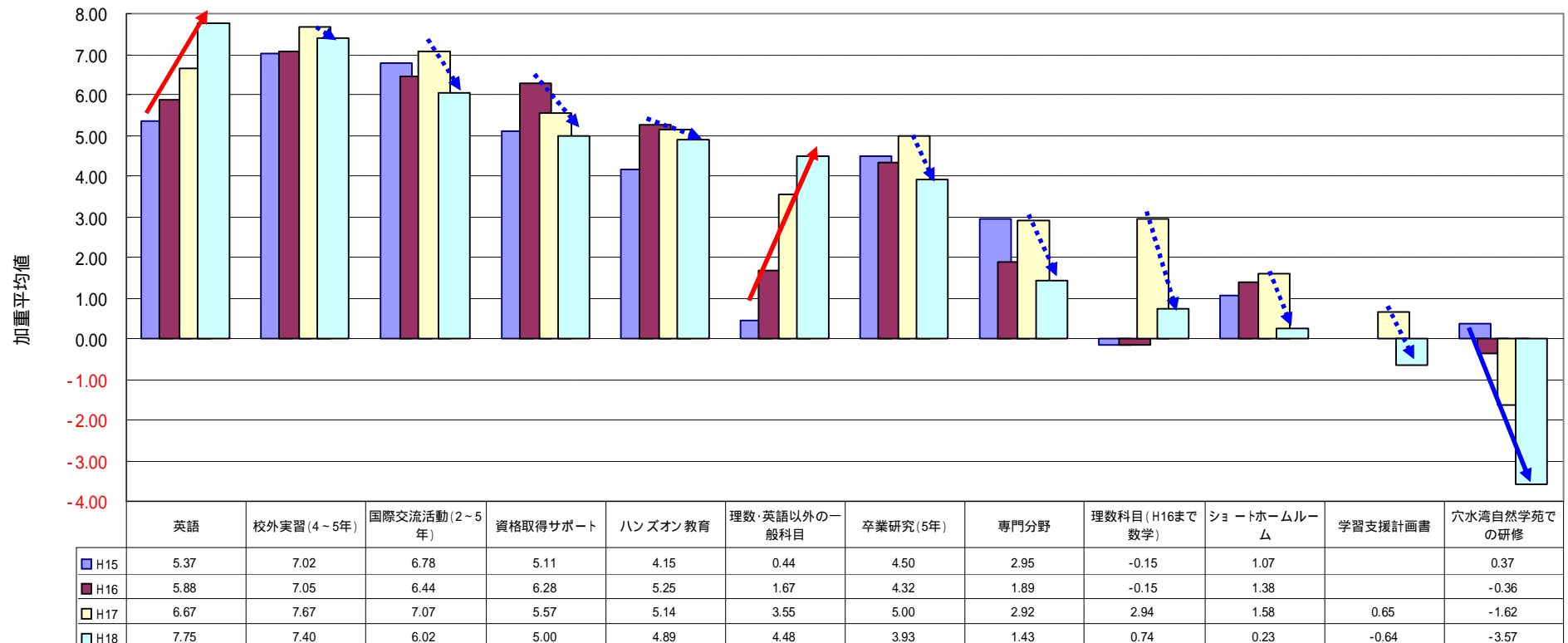


満足しているという意見が半数以下だったもの

## 教職員の授業評価の年度別比較

- 授業に関しては教職員にも同じ質問をしているが、まず加重平均で全体の傾向を見た。教員に対しては「学生は に満足していると思うか？」と聞いており、グラフはH18の数値でソートしている。
- H17と比較すると、「英語」「理数・英語以外の一般科目」の2つは学生の満足度が向上していると考えていたが、その他は満足度が低下していると考えていた。
- 「穴水湾自然学苑での研修」はH15から継続的に満足度が低下しているのではないかと考えていたが、学生の経年変化は継続的に満足度が向上しており、意識の違いが見られた。
- その他多くの項目でH17よりも満足度が下がっていると考えていた。特に「理数科目」「専門分野」「ショートホームルーム」の低下が大きかった。

教職員の授業評価 年度別比較

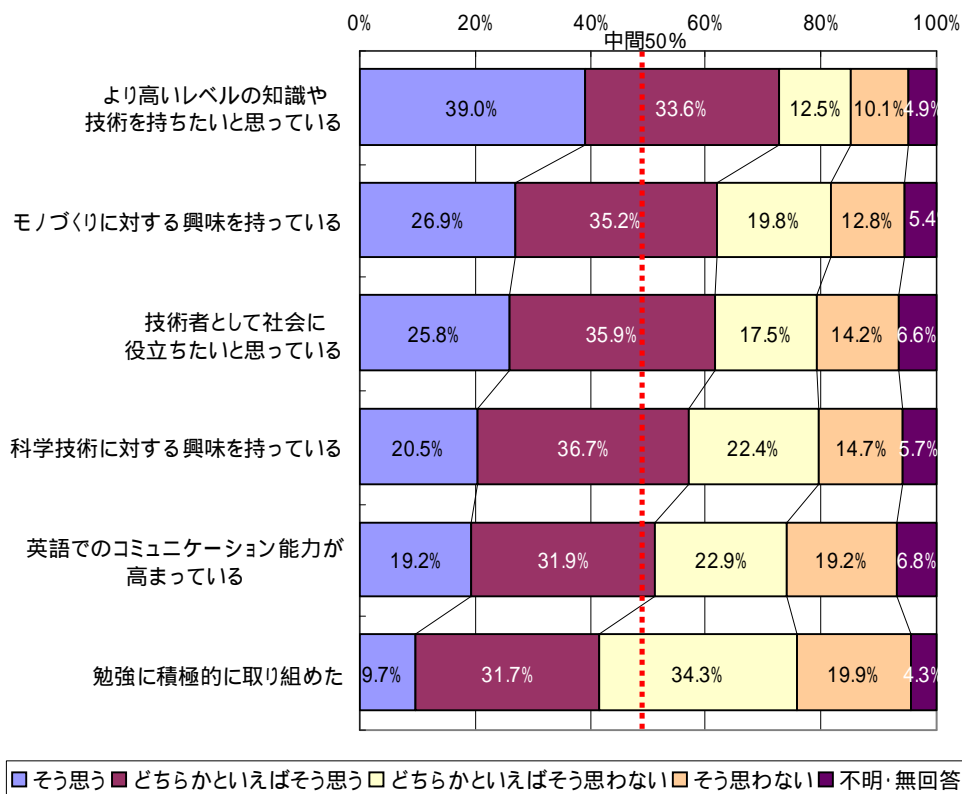


## < 4-2 > 勉強への取り組み姿勢に関して

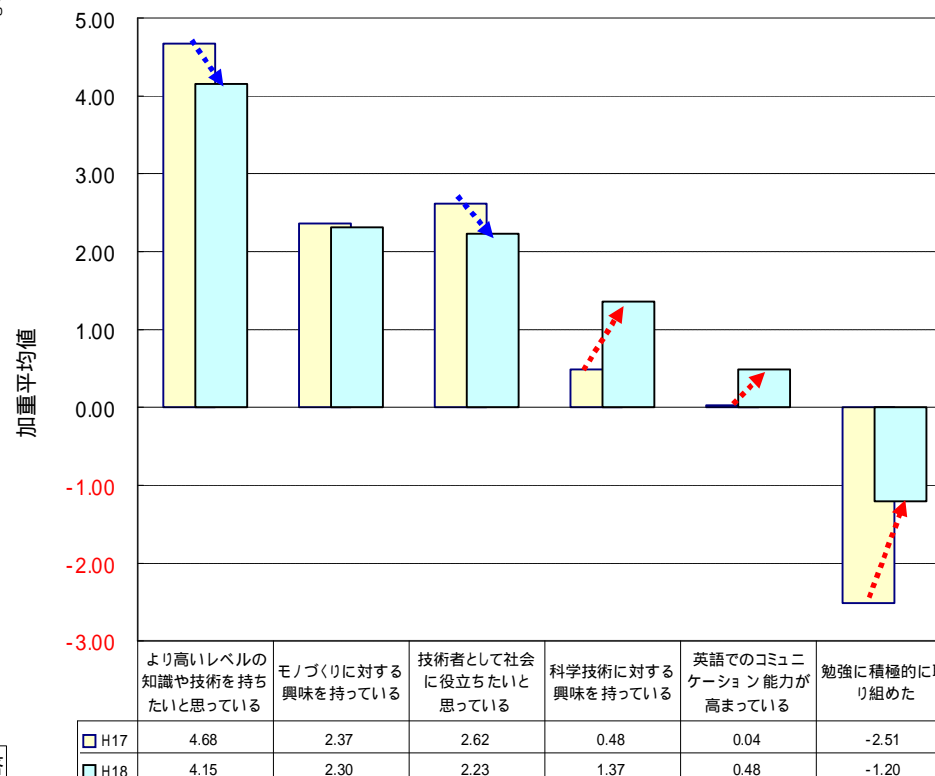
### 勉強への取り組み姿勢

- 自分自身が勉強にどのように取り組んでいるかに関して「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で比較すると、「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」では72.6%が肯定的な回答をしていた。次いで、「モノづくりに興味を持っている」「技術者として社会に役立ちたいと思っている」も約6割が肯定的な回答をしており、前向きな姿勢が見られた。
- しかし、「勉強に積極的に取り組めた」では肯定的な回答が41.4%と過半数を下回り、前向きに取り組みたいと考えているにもかかわらず、積極性を持っていない学生がいることが分かった。
- 加重平均でH17と比較すると、「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」「技術者として社会に役立ちたいと思っている」の2点はスコアが低下していたが、「科学技術に対する興味を持っている」「英語でのコミュニケーション能力が高まっている」のスコアがややアップし、「勉強に積極的に取り組めた」はマイナスではあるものの他と比較してスコアがアップは大きめであった。
- 項目によってスコアの変化は異なるが、自分自身が積極的になっているようで、これは良い状況だと言える。

勉強への取り組み姿勢



勉強への取り組み姿勢 年度別比較

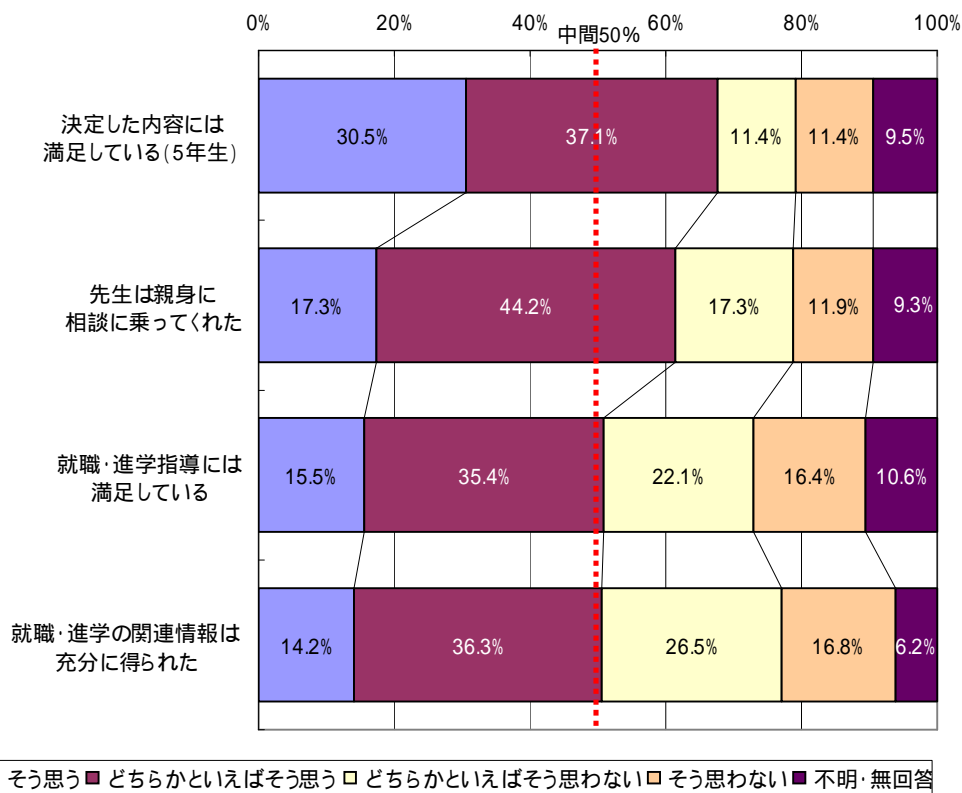


## < 4-4 > 就職・進学指導に関して

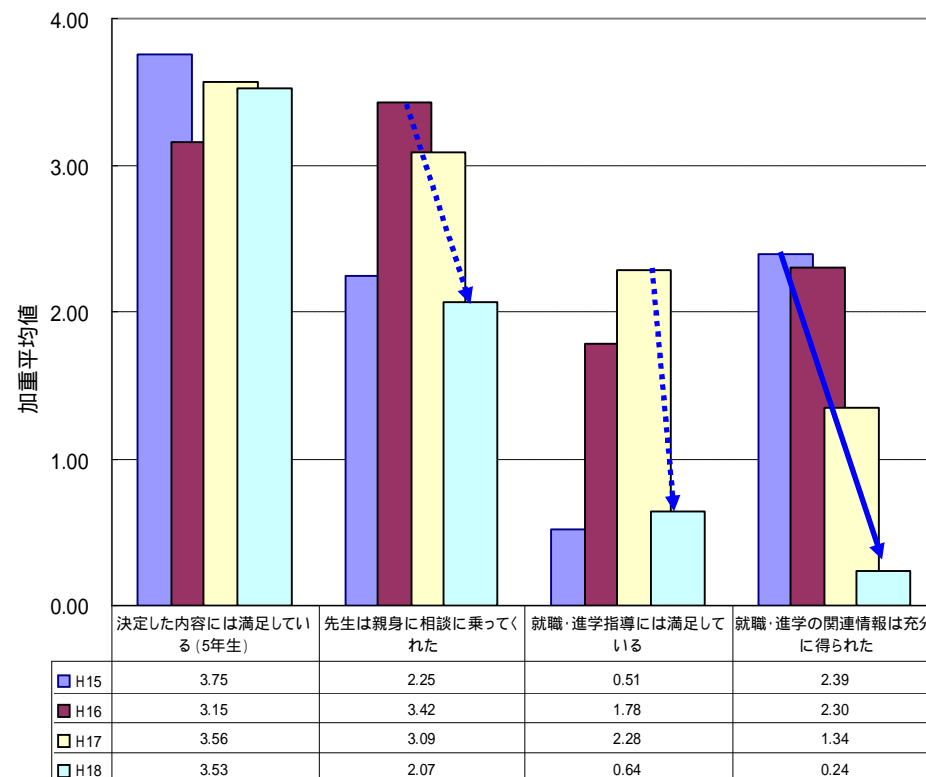
### 就職・進学指導に関して

- 就職・進学指導に関しては4年生と5年生だけに聞いているが、他の分野と比較すると学生の評価は高めであり、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は全て5割を超えていた。
- 最も肯定的な意見が多かったのは「決定した内容には満足している」であり、7割近くの学生が満足したと答えていた。ただし、これは進路に関することであり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計である約2割の学生が就職・進路指導に関してどのような不満を持っているのかはしっかりと把握しておく必要があると言える。
- 他と比べると就職・進学に関する評価は全体的に高かったが、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」「就職・進学指導には満足している」がやや低めであり、情報提供などに関して更に改善が必要と言える。
- 年度別の比較を見ると、残念ながら全ての項目でH17よりも評価が低下していた。「決定した内容～」の低下はわずかであったが、その他の項目の低下は比較的大きく、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」はH15から継続的に低下していた。

就職・進学指導の評価



就職・進学指導の評価 年度別比較

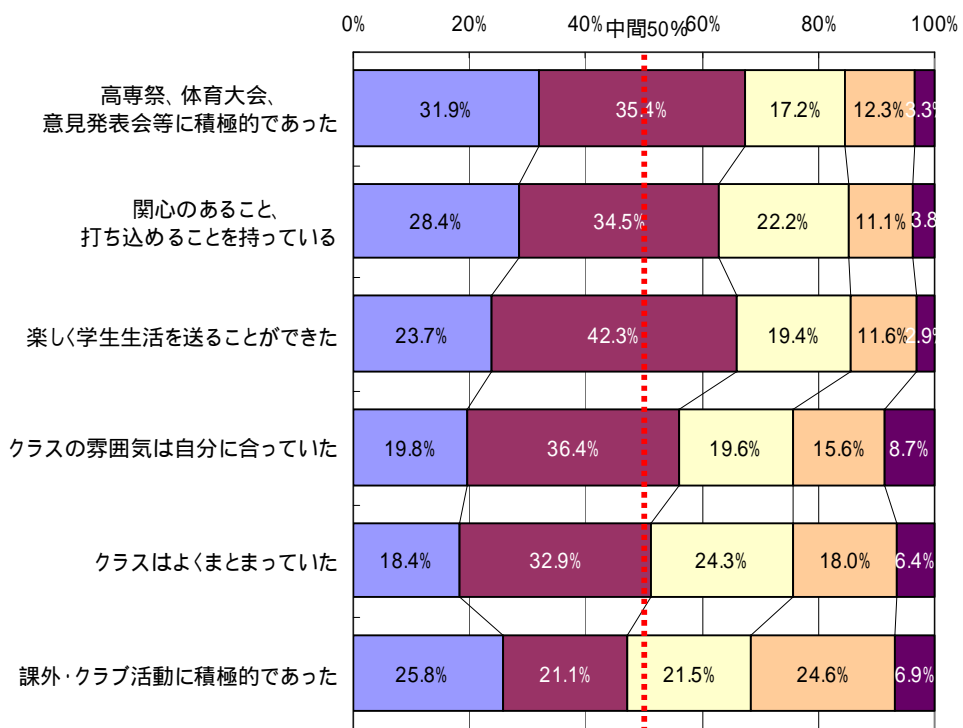


# < 4-5 > 学生生活の評価に関して

## 学生生活の評価

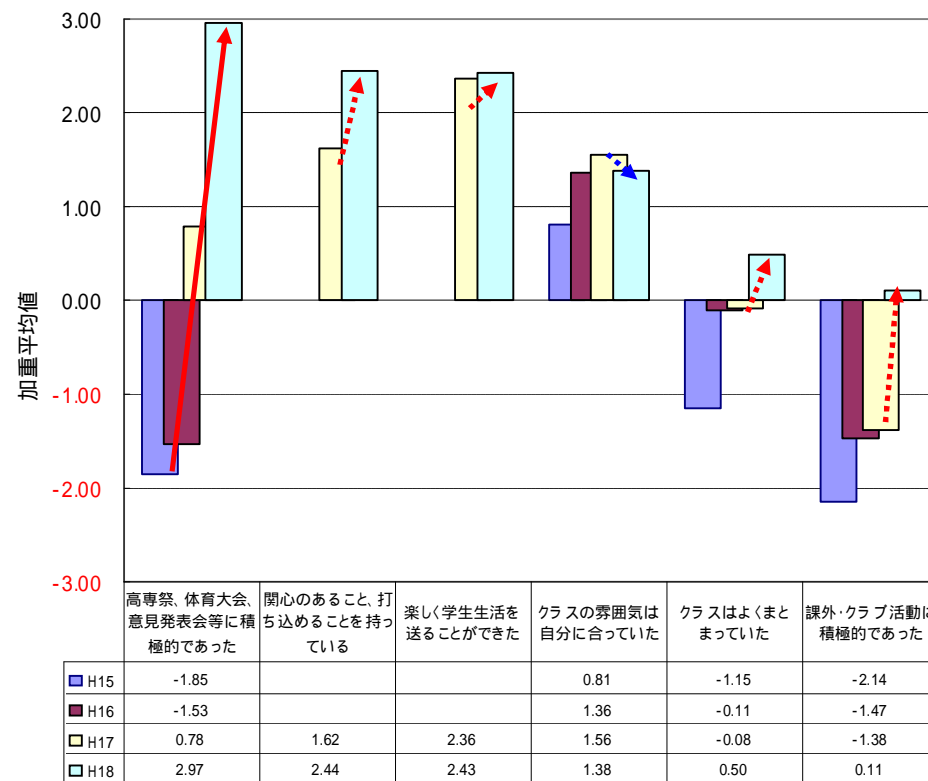
- 学生生活に関しては6つの質問を行った。全体を見ると肯定的な意見が5割を下回ったのは「課外・クラブ活動に積極的であった」だけであるが、これは参加していない学生も含まれると思われ、それを除くと学生生活の評価は比較的高かったと言える。
- 学生生活は自分の取り組み姿勢であるが、グラフを見ると「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的であった」という意見が最も多く、「関心のあること、打ち込めることを持っている」「楽しく学生生活を送ることができた」という割合も多かった。
- 年度別の比較を見ると「クラスの雰囲気は自分に合っていた」がわずかにH17より下がっていたが、他の項目は全てプラスとなっていた。特に「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的であった」はH15より継続的にスコアがアップしており、H17からH18にかけてのアップは非常に大きかった。
- また、H17までマイナススコアであった「課外・クラブ活動に積極的であった」もH17より大きくアップしてプラススコアとなっていた。
- これらの数値を見ると学生生活が非常に充実してきている様子がうかがえる。

学生生活の評価



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 不明・無回答

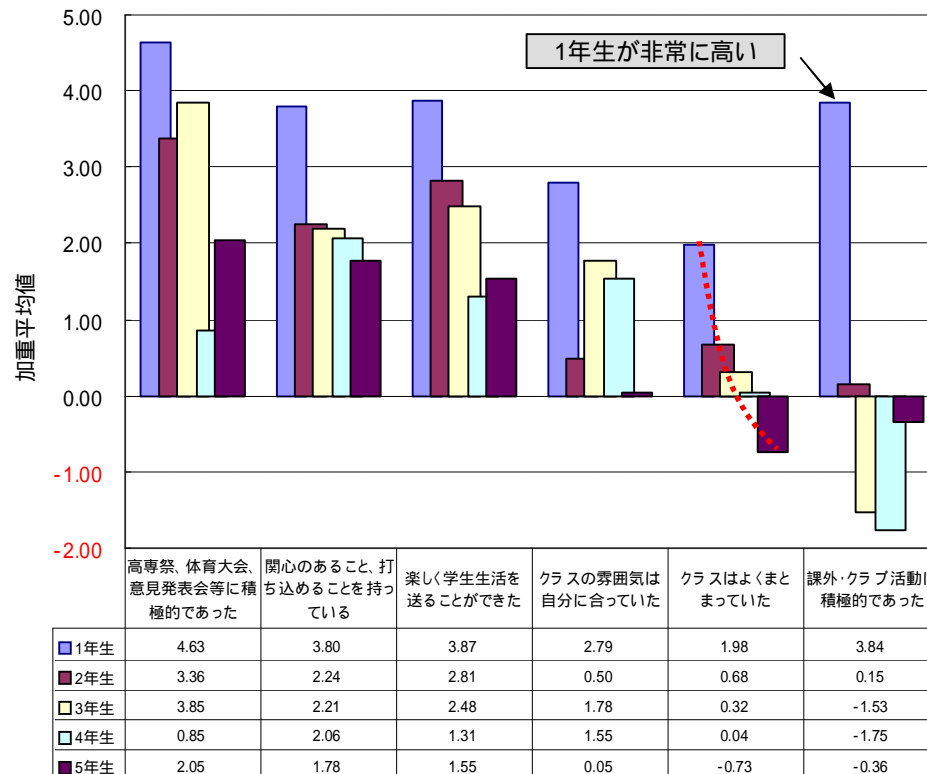
学生生活の評価 年度別比較



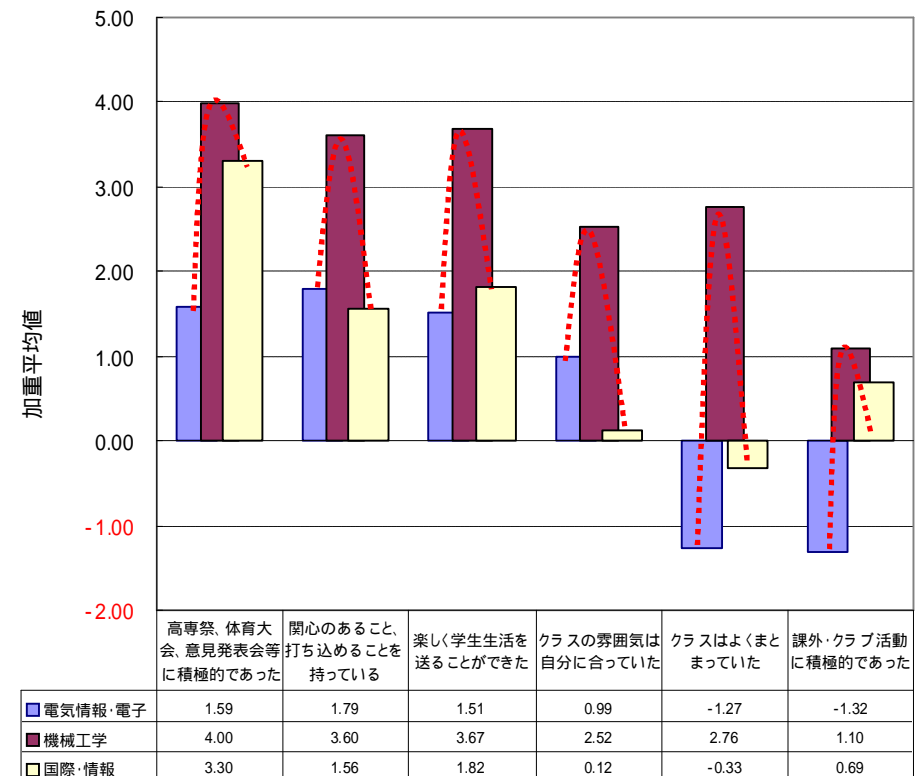
## 学年別比較と共通学科別比較

- 他の分野では、ほぼ学年が上がるほど評価が厳しくなる傾向が見られたが、学生生活に関しては学年毎の雰囲気などがあるためか、学年による傾向はまちまちであった。
- まず全体を見ると、全ての項目で1年生のスコアが最も高く、他の学年と大きく差がついており、1年生は学生生活が充実しているようであった。特に「課外・クラブ活動に積極的であった」は他の学年との差が非常に大きかった。
- 代表的な指標である「楽しく学生生活を送ることができた」では高学年ほどスコアが低い傾向にあったが、4年生は5年生を下回っていた。この傾向は「高専祭、体育祭、意見発表会等に積極的」「課外・クラブ活動に積極的」でも見られ、4年生に少し課題がありそうであった。
- 学科別に見ると全ての項目で「機械工学」のスコアが最も高かった。特に「クラスはよくまとまっていた」は他の学科と大きく差があり、「機械工学」のまとまりの良さが感じられた。
- 他の学科では「電気情報・電子」が低めであり、「クラスはよくまとまっていた」「課外・クラブ活動に積極的」は大きくマイナスとなっていた。そして「国際・情報」は、「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的」のスコアが高い点が目立っていた。

学生生活の評価 学年別比較



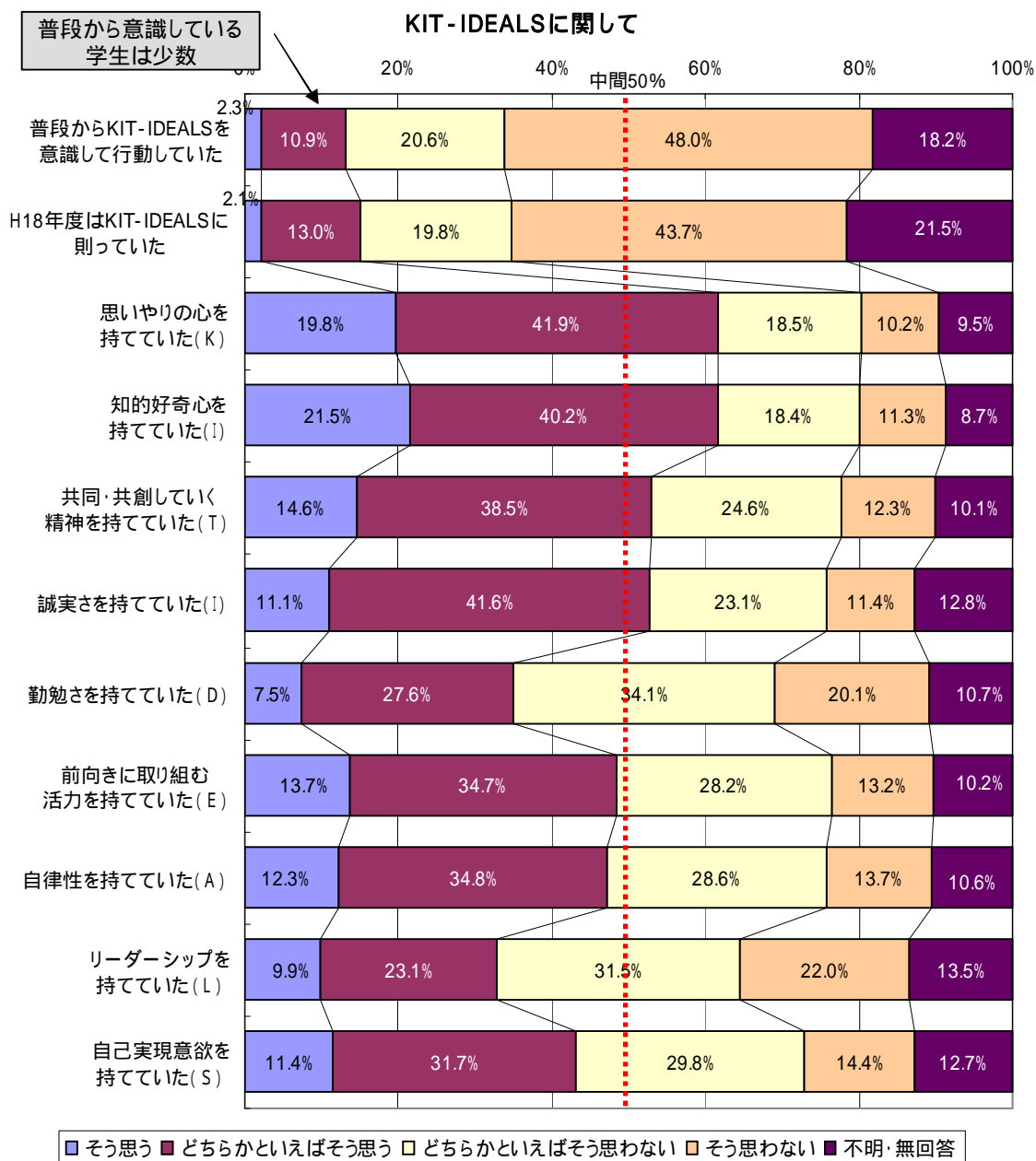
学生生活の評価 共通学科別比較



## < 4-6 > KIT-IDEALSに関して

### KIT-IDEALSの全体像

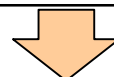
- KIT-IDEALSのグラフは設問の順番通りに並べている。
- まず、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」「H18年度はKIT-IDEALSに則っていた」に関しては、「そう思わない」が4割以上であり、意識している学生が非常に少ないと言える。
- KIT-IDEALSの個別の項目に関しては、「思いやりの心を持っていた(K)」「知的な好奇心を持っていた(I)」「共同・共創していく精神を持っていた(T)」「誠実さを持っていた(I)」の4項目は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が5割を超えており、これらの項目はやや意識しながら行動していると言える。
- その他の項目を見ると、「勤勉さを持っていた(D)」「リーダーシップを持っていた(L)」の2つが特に低く、これらが最も難しい行動規範と言える。



## < 4-7 > 各分野別分析のまとめ

### 学校の指導面に関するまとめ

	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>「校外実習」「英語」「国際交流活動」などの満足度が高かった。</li> <li>「学習支援計画書」「穴水湾自然学苑での研修」「ショートホームルーム」などの満足度が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「校外実習」「英語」などの満足度が高い科目の低下が目立っていた。</li> <li>逆に「学習支援計画書」「穴水湾自然学苑での研修」など、満足度が低いものが向上していた。</li> <li>また、専門系科目の満足度は変わっていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には高学年ほど満足度が下がる傾向にある。</li> <li>校外活動や研修、専門分野は4年生の満足度が最も低く、5年生は少し向上していた。</li> <li>上記以外の一一般的な科目では5年生の満足度が最も低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「機械工学」は全体的に満足度が高めで、特に実践的な科目が高かった。</li> <li>「電気情報・電子」は全体的に低めで、実践的な科目が低かった。</li> <li>「国際・情報」は「英語」「国際交流活動」が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度が高い科目では危機感が少ないためか、スコアの低下が目立った。</li> <li>逆に満足度が低い科目では改善がなされているためか、スコアが上昇していた。</li> <li>専門分野のスコアの動きが少なかった。</li> </ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方や研究への取り組みの評価は高かった。</li> <li>一方、コミュニケーション面や課外活動の面の評価はやや低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H17と比べて多くの項目で教員評価は良くなっていた。</li> <li>特に「課外活動への取り組み」「学生を意欲的にさせる」「気軽に相談できる」の評価が上がっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に高学年ほど教員に厳しい評価をしていた。</li> <li>特にコミュニケーション面では4、5年生の評価の低さが目立っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科別には「電気情報・電子」が教員に厳しい評価をしていた。</li> <li>「機械工学」「国際・情報」の教員への評価は高めで、特に「国際・情報」はコミュニケーション面が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員への評価は上がる傾向にある。</li> <li>コミュニケーション面では4、5年生の低さが全体を引き下げているが、改善のヒントは「国際・情報」で見つかる可能性がある。</li> </ul>
就職 進学指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職・進学指導で決定した内容に満足しているのは約7割であった。</li> <li>課題は情報提供と指導方法であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H17より満足度は低下している。</li> <li>情報提供への不満は年々増加しており、指導自体の評価も大きく低下していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の満足度が高く、4年生が低い傾向にあった。</li> <li>活動がまだ本格的ではない4年生は、不安が大きいものと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「機械工学」の満足度が全項目で高かった。</li> <li>「国際・情報」が低めであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の分野と比較すると満足度は全般的に高い。</li> <li>「国際・情報」は他の満足度は高めであったが、就職・進学指導が低かった。</li> </ul>

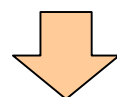


- ◆ 学校側の指導面では「教員」の評価は多くの面で評価が上がっており、学生も改善を感じているのではないかとと思われる。しかし、「授業」と「就職・進学指導」では低下傾向にあった。特に「授業」の評価低下は重要な課題として受け止める必要があると言える。
- ◆ 「教員」に対しては授業の進め方の評価は高かったが、コミュニケーション面の評価が低く、特に4～5年生での低さが全体を引き下げている。「国際・情報」はコミュニケーション面の評価が高く、全体の改善のヒントがある可能性がある。
- ◆ 「授業」では今まで評価の高かった「校外実習」「英語」などの評価低下と、評価が低かった「学習支援計画書」「穴水湾自然学苑での研修」などの評価向上が見られ、科目による対応の差が現れてきた可能性がある。
- ◆ 「就職・進学指導」は満足度としては低くないものの、以前と比較して評価は下がる傾向にある。特に情報提供の不満が年々増えてきており、何らかの対策が必要と言える。また、「国際・情報」が不満を持っており、希望進路と現実とのギャップを感じているのではないかとと思われる。



## 学生自身の意識に関するまとめ

	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
勉強への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 勉強への取り組み姿勢の意識は全般的に高い。</li> <li>□ 高いレベルの知識や技術、モノづくりへの興味などは持っており、意識は高い。</li> <li>□ しかし、勉強に積極的に取り組んでいる学生は4割にとどまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 全体的に以前より積極的になってきている。</li> <li>□ 特に「勉強に積極的に取り組めた」という意見が以前より大きく増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 1年生の段階ではあらゆる面で積極性が見られるが、2年生から3年生にかけて一気に低下している。</li> <li>□ 3年生以降は大きな変化は見られなかった。</li> <li>□ 勉強への取り組みは高学年ほど低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「機械工学」が全般的に高く、最も積極的である。特に「モノづくり」「科学技術」への興味が強かった。</li> <li>□ 「国際・情報」は英語の能力が強まっている実感があり、「電気情報・電子」は勉強に積極的に取り組めていないと実感していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 全体としては積極性は増してきているが、学年差、学科差が非常に大きい。</li> <li>□ 1年生から3年生の間にごのようにして積極性を維持させるかがポイントになると思われる。</li> </ul>
学生生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学生生活の評価は全般的に高い。</li> <li>□ 「高専祭、体育大会、意見発表会」「関心のあることがある」「楽しく学生生活を送ることができた」は6割以上が良い評価であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ほとんどの項目で以前より高い評価となっている。</li> <li>□ 特に「高専祭、体育大会、意見発表会」の向上が大きく、4年連続向上した。</li> <li>□ 「課外・クラブ活動」の評価も上がり、加重平均でマイナス評価がなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 1年生が全項目で高く、特に課外・クラブ活動が充実しているようであった。</li> <li>□ 課外・クラブ活動は3、4年生で充実していないという意見が多く、5年生で「クラスがまとまっていなかった」という意見が多い点が気になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「機械工学」の充実度が高く、特にクラスがよくまとまっていたようであった。</li> <li>□ 「電気情報・電子」は全体的に低く、クラスのまとまりと課外・クラブ活動が低めであった。また、「国際・情報」は「高専祭、体育大会、意見発表会」が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 昨年までそれほど高くなかった「高専祭、体育大会、意見発表会」の評価が大きく上がっていた点が目立った。</li> <li>□ 「機械工学」は全般的に高いが、中でも学生生活は非常に充実しているようであった。</li> </ul>
KIT-IDEALS	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 普段からKIT-IDEALSを意識している学生は13%程度と、非常に少なかった。</li> <li>□ 「思いやりの心」「知的好奇心」は持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 全ての項目で以前より改善されており、KIT-IDEALSに対する意識が上向いていると言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 普段からKIT-IDEALSを意識している割合は高学年ほど低下していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 他の分野のように学科による明確な傾向は見られなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 全体としてKIT-IDEALSに対する意識は向上している。</li> </ul>

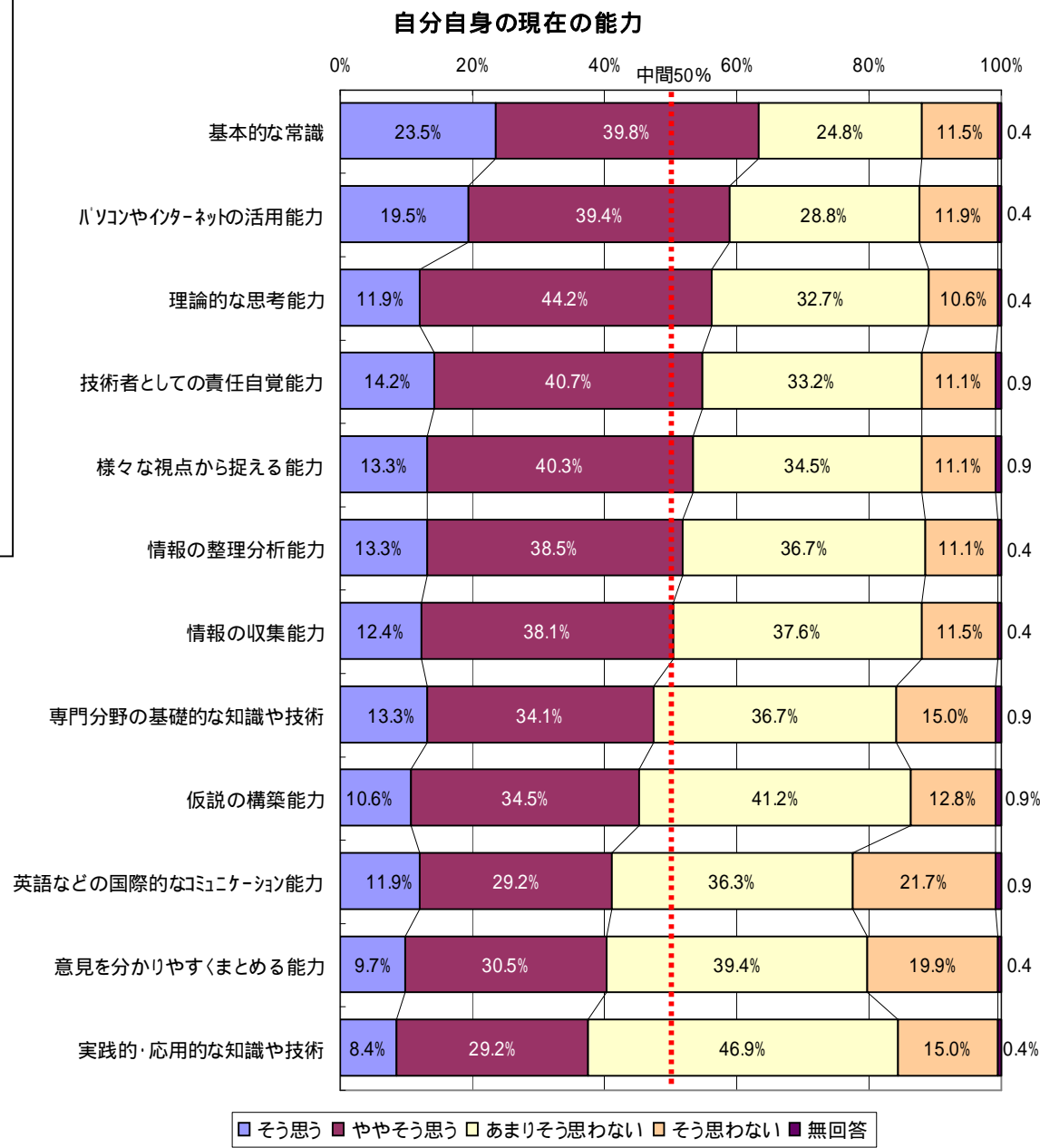


- ◆ 学生の意識としては、「勉強への取り組み」「学生生活」「KIT-IDEALS」の3つの分野共に意識が向上しており、学生は以前より積極的に色々なことに取り組んでいるようであった。
- ◆ 「勉強への取り組み」「学生生活」は「機械工学」で積極的な姿勢が見られる。逆に「電気情報・電子」で積極性が弱そうであった。
- ◆ 「機械工学」が「モノづくり」や「科学技術」に興味を持ち、「国際・情報」が「英語」に興味を持っているように、興味を持てるポイントを多く作り出すことで最終的な満足度向上につながるものと思われる。
- ◆ 今回、「高専祭、体育大会、意見発表会」の評価が大きく上がっていた点が目立っており、要因を探った方が良いと思われる。

# < 5-1 > 学生の能力に関して

## 自分自身の能力に関して

- 学生に対しては、4年生と5年生を対象に、「あなた自身は現段階で各々の項目をどの程度満たしていると思いますか？」という聞き方をしている。
- 全体の中で最も自信を持っていたのは「基本的な常識」であり、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は63.3%であった。
- そして、上記に次いで「パソコンやインターネットの活用能力」「理論的な思考能力」「技術者としての責任自覚能力」「様々な視点から捉える能力」などに自信を持っていた。
- 逆に最も自身を持っていなかったのは「実践的・応用的な知識や技術」であり、やはり実践面での不安を持っているようであった。そして、「意見を分かりやすくまとめる能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」などが自信を持っていない項目であった。



## < 5-2 > 学生の能力のまとめ

### 学生の能力に関するまとめ

学生は「基本的な常識」「パソコンやインターネット活用能力」などに自信を持っているが実践的な能力に不安を感じていた。

- 学生は自分自身の現在の能力として、「基本的な常識」「パソコンやインターネットの活用能力」「理論的な思考能力」などに自信を持っていた。
- 一方、「実践的・応用的な知識や技術」「意見を分かりやすくまとめる能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」などに自信を持ておらず、実践面での能力に不安を持っているようであった。

「基本的な常識」「パソコンやインターネットの活用能力」など、自信のある部分での自信低下が見られた。

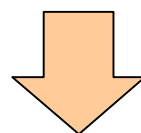
- H17よりスコアが上がったのは「様々な視点から捉える能力」「専門分野の基礎的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」などであるが、上がり方はわずかであった。
- 一方、下がったのは「基本的な常識」「パソコンやインターネットの活用能力」「技術者としての責任自覚能力」などであり、「技術者としての責任自覚能力」の低下はやや大きかった。

学年別では5年生よりも4年生の自己評価が高く、学科別では「機械工学」の低さが目立っていた。

- 全ての項目で5年生よりも4年生の方が自信を持っていた。
- 5年生は卒業を控えて客観的に自分の能力を評価しているようである。一方、4年生の自己評価の基準は少し甘いのではないかとと思われる。
- また、学科別では「機械工学」の自己評価が全般的に低く、特に情報処理能力に不安を持っている傾向がうかがえた。

教職員は学習で身につけられる能力は学生はもっと自信を持つべきであるが、応用が必要な面は不足していると考えていた。

- 教職員はKTCの学生は「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「パソコンやインターネットの活用能力」「情報の収集能力」などはもっと自信を持って良いと考えていた。これらは学習などで身につくものであり、それらの訓練は十分に積んでいると評価していた。
- 一方、「様々な視点から捉える能力」「理論的な思考能力」「仮説の構築能力」など、応用が必要な能力が不足していると考えていた。



- ◆ 学生は以前と同様に「常識」と「パソコンやインターネットの活用能力」に自信を感じていたが、それらの自信はやや低下傾向にあった。
- ◆ 教職員の評価を見ると、学生が苦手としていた「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の評価が高く、「パソコンやインターネットの活用能力」なども含めて学習で身につく能力に関しては、学生はしっかりと学習しており、もっと自信を持つべきだと考えていた。
- ◆ 一方、学生は「実践的・応用的な知識や技術」「意見を分かりやすくまとめる能力」など、実践による経験や応用が必要な能力に自信を持ておらず、その見方は教員と一致していた。客観的にKTCの卒業生にそれらの能力が不足しているのかは不明であるが、継続的に注目していくことが必要だと思われる。

---

平成18年度

**KTC総合アンケート調査結果[報告書]**

発行日	平成18年12月25日
発行者	金沢工業高等専門学校
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

---

無断複製厳禁

再生紙を使用しています